

令和7年度 第1回長野県長野高等学校学校評議員懇談会 記録

1. 日 時 令和7年 7月 10日 (木) 15:00～16:30

2. 会 場 長野県長野高等学校 大会議室

3. 出席者

学校評議員6名(五十音順)

小林 光 氏(長野赤十字病院長)

押鐘 真弓 氏(長野市PTA連合会副会長)

竜野 泰一 氏(株式会社エーシーエ設計 代表取締役)

中村 正行 氏(信州大学教育・学生支援機構・信州大学学術研究院工学系 特任教授)

吉江 志濃 氏(臨床心理士・スクールカウンセラー)

鷺澤 幸一 氏(炭平コーポレーション代表取締役)

学校職員10名

4. 学校評議員懇談会

(1) 開会(15:00～)

(2) 学校長挨拶・委嘱(15:00～)

(3) 自己紹介(高校職員のみ)

(4) 全日制的状況について(15:10～)

① 全日制的概況(全日制教頭)

- ・各学年通信を参照しながら説明します。4月25日に行われた駅伝大会では、各クラスとも立派なクラス旗を作り、優勝目指して激走した。学年優勝は4組。
- ・4月のスタディサポートの結果を見ると、基礎学力は高いが、学習面に悩みを持つ生徒も少なからずいることも事実である。
- ・2年生は、日々の学習活動を通して主体的に学ぶ姿勢を醸成することを目標としている。
- ・金鵒祭では、教室展示の予約システムを開発した。このシステムは非常に完成度が高く、好評だった。
- ・3年生は、現在、夏休みに行われる学習合宿(木戸池温泉ホテル)の希望者を募っているところである。合宿では、五教科の教員が揃い、生徒の学力アップのサポートを行う。

② 進路学習支援係より（進路学習支援係）

- ・本校では地域のみならず日本、世界で活躍できる人材を育成する進路指導を目指している。その基本は常に学び続ける姿勢、人の心を思いはかることのできる人間教育である。
- ・本校の生徒は、班活や学習など本当に忙しい高校生活を送っているが、それぞれが一生懸命に頑張っており、人間力のアップに繋がっていると思う。
- ・各学年とも指導計画に沿って取り組んでいる。
- ・1年生は、学習生活習慣の確立と基礎学力の充実および課題研究等により思考力の向上を目指す。2年生は、9月に実施される学部・学科研究を経て志望校を意識させ、秋には選択科目の決定へと繋げていく。1年生の東大セミナー、2年生の東北大セミナーとも予定数を超える希望となっている。3学年では、進路実現に向け、入試に必要な様々な学力を身につける“自立した学習者”の確立を目指している。
- ・昨年度は新課程入試初年度であったが、大きな混乱もなくそれなりの結果を残した。

③ 生徒指導係より（生徒指導係）

- ・本年度の自転車による交通事故は、5月末までに11件が報告された。特に1年生の事故が多く、まだ通学に不慣れ等の要因が考えられる。今後も保護者と連携しながら注意喚起を継続したい。
- ・生活実態調査による本校の学校生活の満足度は、1年生で満足・まあまあと回答した生徒の割合が90%で、学年が上がるごとにさらに割合が増えており、多くの生徒たちは充実した高校生活を送っていることがわかる。
- ・保健室利用状況は、昨年度に比べ内科的件数についてほぼ300件近く減少した。

④ 生徒会係より（生徒会係）

- ・生徒会行事は例年通りに実施できており、生徒会役員も主体的に活動している。
- ・班加入状況は、運動系が422名、文科系が295名でほぼ半数である。
- ・生徒会としての新たな取組みは、5月に善光寺花回廊に参加して、「クラシックフリーマーケット」を実施し、収益金は信州子ども食堂に寄付した。
- ・現在、会長選挙の公示がされ、定期考査中で立候補者が出るか心配したが、3名の立候補者の申し込みがあった。

⑤ NGP係より（NGP係）

- ・NGP(カノ・グローバル・プロジェクト)は、文部科学省指定のSGH事業終了後、基本的な事業(課題研究と国際交流)を継続して行う探究活動である。毎週月曜日の6時限目に設定し、全職員が担当して1～3学年の学校全体で実施している。1年生はテーマ

ごとにグループ単位で、2年生は個人で探究活動に取り組み、夏休みを利用してフィールドワークを実施する計画である。3年生は選択となっており、探究をさらに深めたいと考える生徒が熱心に取り組んでいる。

- ・国際交流については、例年実施の米国研修にシンガポール研修とイギリス研修が加わり、選択の幅が広がった。

(5) 定時制の状況について (定時制教頭)

- ・職員間で生徒情報の共有に努め、SC や SSW や外部機関との連携を活用しながら、全職員で個々の生徒の指導に生かしている。アットホーム的な雰囲気により、学校を楽しんでいる生徒も見られる。
- ・大学進学を目指して午後3時頃に登校し、勉強している4年生の生徒もおり、卒業後の進路は多岐にわたる。
- ・本校定時制独自の取り組みとして、総合的な探究の時間(1・2学年)の授業で、外部講師のご指導をいただき、“Edible Wonder! Garden”と名付けた菜園をつくり、秋には、全生徒・職員で調理して食する収穫祭を行っている。現在、中庭では里芋、ジャガイモ、トマト、トウモロコシなどを育てている。

(6) 学校評価について (全日制教頭)、(定時制教頭)

- ・全日制、定時制について中間および年度末最終評価をお願いしたい。(各議員に依頼)

(7) 意見交換

- 評議員 ・医療関係者という立場からお願いしたい。現在、長野県では医師の偏在が顕著で、長野県出身の医学部生は毎年200人必要だが、100人に満たない。県外の大学の医学部へ進学した人は長野県へは戻らず、その数は半数以上である。
- ・新潟高校では、医療関係者の講演会を定期的実施するなど地元の医師確保のために取り組んでいる。是非、長野高校でも、地域医療の向上のために尽力していただきたい。
- ・人の痛みがわかる、すぐれた医師を育てたい。長野高校の生徒が、多感な時期である高校三年間を通して、様々な経験をしながら人間力を高めていくことを願っている。
- 評議員 ・定時制の統合について、長野高校の定時制は今後どのようなになるのか。長野東に吸収されるのか。

(学校長) ⇒ ・長野東スーパーフレックス新校に吸収という形になる。

- 評議員 ・班活に学習、そしてNGPの活動など人間力を向上させる取り組みが長野高校

にはあり、とても素晴らしいと感じた。

○評議員 ・理系女子枠の存在について、女子生徒に伝えているのか。また、現状、女子の理系の割合はどのくらいか。

(進路指導) ⇒ ・女子生徒には、受験情報として伝えてある。しかし、積極的に利用せよという言い方はしていない。

・理系女子の割合は、男女別では調べていないが、全体では理系が約6割、文系が4割程度と思われる。

○評議員 ・工学部の志願倍率が年々低下しているので、女子といわず未決定の生徒に工学部の魅力を伝える機会をつくっていただきたい。

○評議員 ・最近の奨学金には返さなくても良いタイプのもも多数あるので、経済的に苦しい家庭の生徒に是非伝えていただきたい。

○評議員 ・工学部の人気下がってきている。信州大学では、1学部1学科コース制に改組して対応している。特定の学問に特化するのではなく、すべての学問をまんべんなく学べるようにしてほしい。

○評議員 ・悩みをもつ生徒も多く、教員がその生徒の悩みを聞いたり、受け止めたりするのに要する時間もかなり多いのではと思う。生徒の悩みを受け止めるための研修のみならず教員自身の心の健康を保つための研修も重要である。

・定時制の4年生の在籍数が少ないが、中途退学等によるものか。

(定時制教頭) ⇒ ・3年生の段階で、半数以上が3卒生として卒業するので、4年の在籍数は半数以下となる。

○評議員 ・海外の大学の学費がインフレとなり大変であるが、是非海外の大学で学びたいというモチベーションにつながるような海外研修の取り組みをお願いしたい。

・浪人生の進学状況もしっかりと把握していて素晴らしいと思う。

(8) 校長より御礼の言葉

(9) 閉会 (16:30)